

	2007年	2008年	2009年
①人口:1,658万人(2009年)			△4.0
②面積:4万1,526k m <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:4万8,223米ドル(2009年)			
④実質GDP成長率(%)	3.6	2.0	
⑤貿易収支(ユーロ)	416億6,100万	387億5,600万	342億4,900万
⑥経常収支(ユーロ)	493億1,000万	285億2,300万	306億6,400万
⑦外貨準備高(米ドル)	102億7,000万	114億7,600万	181億500万
⑧為替レート(1米ドルにつき、ユーロ、期中平均)	0.7306	0.6827	0.7198

〔注〕⑤:財のみ、⑤⑥:国際収支ベース

〔出所〕①④:オランダ中央統計局(CBS)、②オランダ外務省、③⑦⑧:IMF、⑤⑥:オランダ中央銀行(DNB)

2009年のオランダの実質GDP成長率は金融危機の影響でマイナス4.0%と前年に比べ大きく減速した。貿易を通関ベースで見ると、輸出は前年比16.5%減、輸入も17.9%減とそれぞれ大きく減少した。投資に関しては対内、対外ともに引き上げ超過の国が多くみられた。エネルギー関係の大型案件が目立ち、また金融危機で疲弊した銀行の売却案件も見られた。

## ■金融危機の影響で経済は大幅な減速

オランダ経済企画庁(CPB)によると、2009年の実質GDP成長率は前年の2.0%からマイナス4.0%と大きく減速した。内訳をみると、民間部門の総固定資本形成が2008年の前年比7%増から17.5%減、輸出が2008年の1.0%から9.6%減に、また輸入も2008年の3.7%増から10.7%減へと、いずれも大きく落ち込んだ。失業率も2009年が4.9%、2010、11年ともに6.5%と急速に悪化する見込み。金融危機の影響は引き続きオランダ経済に残りそうだ。

CPBは、2010年、11年のGDP成長率をそれぞれ1.5%、2.0%とし、緩やかな回復を見込んでいる。ただし、ギリシャ発の信用不安に伴い、欧州経済全体が不確実性に満ちており、下方修正される可能性もある。

## ■中国向け輸出が急増

オランダ中央統計局(CBS)によると、2009年の貿易は、輸出が3,094億7,400万ユーロで前年比16.5%減、輸入は2,757億7,900万ユーロで前年比17.9%減と大きく減

少した。

貿易収支は336億9,500万ユーロの黒字となり、黒字幅は2008年の345億5,900万ユーロから8億6,400万ユーロ減少した。

輸出を品目別にみると、最大の品目である電気機器・機械類(構成比24.8%)が15.5%減と大きな落ち込みを見せた。そのほかにも、鉱物品(12.6%)が33.5%減、輸送機械(3.6%)も33.1%減と大きく減少した。鉱物品では鉱物性燃料、輸送機器では自動車と、それぞれの項目で大きなシェアを占める品目の減少が大きく影響している。輸出全体が大きく減退している中で、たばこ・飲料(7.2%)が1.4%減、精密機器(4.0%)が3.4%減と比較的安定していた。また、化学品(16.2%)も医薬品が安定していたおかげで、6.9%減と1ケタの減少にとどまった。

国・地域別では、輸出の74.5%を占めるEU27向けは前年比18.5%減を記録した。全体の58.3%を占めるユーロ圏でも、最大の輸出相手国であるドイツ(構成比24.1%)が17.7%減、それに次ぐベルギー(11.0%)が20.6%減、フランス(8.9%)が14.6%減といずれも大きく

表1 オランダの品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2008年		2009年		2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
植物類	19,732	18,493	6.0	△ 6.3	13,615	11,658	4.2	△ 14.4
たばこ、飲料	22,723	22,412	7.2	△ 1.4	14,319	14,294	5.2	△ 0.2
鉱物品	58,595	38,981	12.6	△ 33.5	64,868	45,016	16.3	△ 30.6
化学品	53,777	50,056	16.2	△ 6.9	42,689	40,985	14.9	△ 4.0
卑金属類	25,800	17,825	5.8	△ 30.9	25,738	17,272	6.3	△ 32.9
電気機器・機械類	90,884	76,823	24.8	△ 15.5	81,680	67,868	24.6	△ 16.9
輸送機械	16,729	11,186	3.6	△ 33.1	20,804	15,193	5.5	△ 27.0
精密機器	12,788	12,348	4.0	△ 3.4	12,200	11,500	4.2	△ 5.7
合計(その他含む)	370,480	309,474	100.0	△ 16.5	335,921	275,779	100.0	△ 17.9

〔出所〕表2、5とも、オランダ中央統計局(CBS)ウェブサイト(2010年5月30日ダウンロード)。

表2 オランダの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ, %)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2008年	2009年			2008年	2009年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	282,730	230,544	74.5	△ 18.5	185,125	153,280	55.6	△ 17.2
ユーロ圏	219,114	180,336	58.3	△ 17.7	142,989	117,868	42.7	△ 17.6
ドイツ	90,618	74,570	24.1	△ 17.7	64,622	54,125	19.6	△ 16.2
ベルギー	42,967	34,136	11.0	△ 20.6	33,896	27,474	10.0	△ 18.9
フランス	32,375	27,645	8.9	△ 14.6	16,884	13,595	4.9	△ 19.5
非ユーロ圏	63,257	49,904	16.1	△ 21.1	41,902	35,168	12.8	△ 16.1
英国	33,586	26,149	8.4	△ 22.1	21,224	16,856	6.1	△ 20.6
ポーランド	7,261	5,906	1.9	△ 18.7	3,938	3,604	1.3	△ 8.5
チェコ	4,481	3,793	1.2	△ 15.4	3,701	3,782	1.4	2.2
ハンガリー	2,725	2,097	0.7	△ 23.0	2,004	1,876	0.7	△ 6.4
ロシア	6,559	4,471	1.4	△ 31.8	13,036	9,745	3.5	△ 25.2
トルコ	3,850	3,525	1.1	△ 8.4	1,642	1,369	0.5	△ 16.6
米国	16,472	14,045	4.5	△ 14.7	27,042	23,193	8.4	△ 14.2
アジア	26,189	25,472	8.2	△ 2.7	67,566	56,404	20.5	△ 16.5
中国	3,852	4,610	1.5	19.7	25,000	21,914	7.9	△ 12.3
韓国	2,466	1,730	0.6	△ 29.8	2,089	1,693	0.6	△ 19.0
日本	2,945	2,405	0.8	△ 18.3	9,492	7,270	2.6	△ 23.4
台湾	1,462	1,292	0.4	△ 11.6	2,116	1,829	0.7	△ 13.6
インド	1,565	1,692	0.5	8.1	2,309	2,394	0.9	3.7
中南米	6,352	5,289	1.7	△ 16.7	14,388	11,091	4.0	△ 22.9
合計(その他含む)	370,480	309,474	100.0	△ 16.5	335,921	275,779	100.0	△ 17.9

落ち込んだ。非ユーロ圏をみると、英国(8.4%)が22.1%減、ポーランド(1.9%)が18.7%減、チェコ(1.2%)は前年からのマイナスが拡大し15.4%減、ハンガリー(0.7%)も同じく前年からのマイナスが拡大し23.0%減であった。EU域外では、ロシア(1.4%)は電気機器・機械類が4割近く減少したことが響き、31.8%減と大きな落ち込みをみせた。

アジア向け輸出(構成比8.2%)は前年比2.7%減にとどまったが、国によって大きな差が見られた。輸出額の多い国を見ると、中国、日本、韓国、インドの順となる。1位の中国向け輸出(1.5%)は19.7%増と大きな伸びをみせ、インド(0.5%)も8.1%増となった。景気後退期にあつて新興国向け輸出は堅調に伸びている。中国向けの大幅な増加は、全体の3割以上を占める電気機器・機械類が9.5%伸びたほか、鉄鋼が前年比74.3%増、有機化学品が同71.6%増と高い伸びを示したことが大きい。対インドでも、鉄鋼、有機化学品が大きく伸びている。

一方、日本(構成比0.8%)は18.3%減、韓国(0.6%)は29.8%減、台湾(0.4%)は11.6%減と軒並み減少した。韓国は機械の輸出が大きく減少した。

### ■ 輸入は全体的に低調

輸入を品目別にみると、全体の4分の1弱を占める電気機器・機械類が16.9%減と大きく減少した。鉱物品(構成比16.3%)は30.6%減、卑金属類(6.3%)は32.9%減、輸送機械(5.5%)は27.0%減といずれも大きく落ち込んだ。一方、化学品(14.9%)が4.0%減、たばこ・飲料

(5.2%)が横ばい、精密機械(4.2%)が5.7%減といずれも比較的軽微な減少幅であった。

国・地域別では、全体の55.6%を占めるEU27が前年比17.2%減であった。主要輸入相手国のドイツ(構成比19.6%)は16.2%減、ベルギー(10.0%)18.9%減、フランス(4.9%)19.5%減といずれも大きく減少した。非ユーロ圏では英国(6.1%)が20.6%減、ポーランド(1.3%)が8.5%減、ハンガリー(0.7%)6.4%減となった。他方、チェコ(1.4%)は2.2%増加した。また、米国(8.4%)は14.2%減、ロシア(3.5%)は25.2%減といずれも大きな落ち込みを見せた。ロシアはエネルギー価格の下落によるところが大きい。

オランダのアジア地域からの輸入は非ユーロ圏のEU加盟国からの輸入(構成比12.8%)を上回り、全体の20.5%を占める。国別では、アジア最大の輸入相手国である中国(7.9%)は、米国(8.4%)にわずかに及ばないものの、英国(6.1%)、フランス(4.9%)を上回る。その中国が12.3%減となったのをはじめ、韓国(0.6%)19.0%減、台湾(0.7%)13.6%減と、軒並み大きく減少した。インド(0.9%)は3.7%増ではあったが、前年の28.7%増からは大きく落ち込んだ。

### ■ 対内直接投資は回復

オランダ中央銀行(DNB)によれば、2009年の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は、193億9,900万ユーロとなり、前年の引き揚げ超過(52億300万ユーロ)から大きく増加した。

表3 オランダの対内・対外直接投資<国際収支ベース、ネット、フローおよび残高>

(単位:100万ユーロ)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年度末残高
対内直接投資額	18,645	3,705	38,430	6,245	84,290	△ 5,203	19,399	478,407
対外直接投資額	39,016	23,488	105,996	51,841	20,754	13,696	12,799	602,866

〔出所〕表4とも、オランダ中央銀行(DNB)。

表4 オランダの国・地域別対内・対外直接投資  
<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ユーロ)

	対内直接投資		対外直接投資	
	2008年	2009年	2008年	2009年
	金額	金額	金額	金額
EU27	△ 14,490	16,725	16,132	△ 7,513
ユーロ圏	△ 11,990	5,931	11,033	△ 7,492
ルクセンブルク	6,492	△ 3,736	8,693	△ 1,415
アイルランド	△ 184	△ 980	1,787	△ 3,966
イタリア	149	△ 70	△ 7,848	4,309
スペイン	△ 15,649	△ 212	1,369	411
フィンランド	△ 14	△ 71	236	840
オーストリア	132	△ 111	△ 18	△ 544
ベルギー	△ 8,211	1,215	6,213	△ 6,046
フランス	3,072	△ 615	1,671	△ 515
ドイツ	2,126	10,611	△ 1,402	△ 1,799
スロバキア	△ 25	26	37	△ 32
非ユーロ圏	△ 2,507	10,798	5,100	△ 23
英国	△ 2,604	967	3,451	△ 1,206
スウェーデン	△ 245	9,810	△ 82	894
ポーランド	23	△ 2	868	△ 218
ルーマニア	△ 4	1	△ 55	220
ロシア	45	29	827	527
スイス	△ 914	4,924	1,702	12,741
米国	5,374	△ 7,849	1,389	△ 4,158
ブラジル	21	△ 67	△ 16,205	△ 150
中国	107	△ 63	860	△ 176
日本	189	515	567	△ 1,664
合計(その他含む)	△ 5,203	19,399	13,696	12,799

オランダ経済省企業誘致局(NFIA)の発表によると、NFIAが支援した2009年の対内直接投資案件は155件で、3,887人の雇用を創出し、合計で31億4,200万ユーロ(08年6億6,700万ユーロ)の投資が行われた。前年より金額が大幅に増加したのは、エネルギー分野への大規模プロジェクト投資が2件行われたためとしている。投資元を地域別で見ると、アジアからの案件が半分以上の82件、北米52件、欧州14件だった。国別では、米国が49件、韓国30件、中国から24件、インド11件、日本および台湾5件などと続いた。

案件のうち31%は販売拠点の設立だったが、NFIAは特筆すべき傾向として、研究開発(R&D)センターの設立が投資案件の10%を占めることを挙げている。

業種別にみると、情報通信分野が25件と最も多く、次いで電気・電子機器(10件)、生命科学・医療(9件)、化学(8件)、食品(8件)と続いている。

全体では、エネルギー関係の大型買収案件が複数あり、

対内直接投資額を押し上げる要因となった。スウェーデンの国営電力会社ヴァッテンファルによる電力会社ヌオンの買収、ドイツ大手エネルギーのRWEによるオランダ電力会社エセントの買収などがあつた。なお、同社はオランダ国内の石炭火力発電所建設プロジェクトに20億ユーロ投資することも決定している。

また金融機関の整理再編も進んだ。金融危機後、オランダ政府が引き取っていたABNアムロ銀行、およびフォルティス銀行の保険事業については、ドイツ銀行がABNアムロ銀行の一部を7億ユーロで、英国のアムリンがフォルティス銀行の保険事業を3億5,000万ユーロでそれぞれ買収した。INGについては、スイスのプライベートバンク部門をスイスのユリウス・ベアー銀行に3億4,400万ユーロ、アジアのプライベートバンク部門をシンガポールの

OCBC銀行に10億ユーロ、オーストラリア、ニュージーランドの保険部門をオーストラリア・ニュージーランド銀行(ANZ)に11億ユーロでそれぞれ売却した。

引き揚げ案件としては、オランダの小売りチェーンジャンボが仏カジノ・グループの保有するオランダ小売りチェーン、スーパー・デ・プールの店舗を5億5,300万ユーロで買収した。オランダでは大手スーパーチェーンのアルバート・ハインに対抗するため同業他社が共同購入を始めるなど競争が激化しており、この買収劇は注目された。他方、2008年にスーパー・デ・プールの57%の株式を取得していた仏カジノ・グループは、1年あまりでの撤退となった。

## ■対外直接投資は微減

2009年の対外直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、127億9,900万ユーロで前年比6.5%減となった。

表 5 オランダの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万ユーロ, %)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2008 年		2009 年			2008 年		2009 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
動物類	116	105	4.4	△ 9.5	鉱物品	79	59	0.8	△ 25.3
植物類	132	110	4.6	△ 16.7	化学品	646	599	8.2	△ 7.3
たばこ, 飲料	226	402	16.7	77.9	プラスチック, ゴム類	316	265	3.6	△ 16.1
鉱物品	327	134	5.6	△ 59.0	繊維類	29	26	0.4	△ 10.3
化学品	329	282	11.7	△ 14.3	卑金属類	220	233	3.2	5.9
プラスチック, ゴム類	88	87	3.6	△ 1.1	電気機器・機械類	6,185	4,542	62.5	△ 26.6
電気機器・機械類	997	506	21.0	△ 49.2	輸送機器	953	627	8.6	△ 34.2
輸送機器	84	142	5.9	69.0	精密機器	790	688	9.5	△ 12.9
精密機器	353	311	12.9	△ 11.9	雑品	165	120	1.7	△ 27.3
合計(その他含む)	2,945	2,405	100.0	△ 18.3	合計(その他含む)	9,492	7,269	100.0	△ 23.4

国別に對外投資案件をみると、ドイツ向けはオランダの国営送電会社テネットが独エネルギー大手エーオンよりドイツ国内の高電圧送電網を11億ユーロで買収した(2010年2月に欧州委員会承認済み)。EUではエネルギー市場の統合が進められており、本件もそれを睨んでのものだ。

非ユーロ圏では、英国向けで、債務超過に陥っていた英ボイラーメーカー、バクシーを同業の蘭デートリヒ・レメハ社(De Dietrich Remeha)が買収、新会社としてBDRテルメアを設立した(2009年10月に欧州委員会承認済み)。EU域外のうち、米国向けでは、英・蘭日用品大手ユニリーバが米国の食品メーカーサラ・リー社の個人ケア部門を12億7,500万ユーロでの買収を発表した(ただし、欧州委員会は2010年6月に二次審査開始)。オランダの航空機リース大手エアキャップが米国の同業ジェネシス・リースを11億9,000万ユーロで買収した。

### ■日本との貿易は減少

CBSによると2009年の対日貿易は、輸出が前年比18.3%減の24億500万ユーロ、輸入は23.4%減の72億6,900万ユーロであった。輸出入ともに大きく減少し、対日貿易赤字は48億6,400万ユーロであった。

対日輸出を品目別にみると、最大の輸出品目である電気機器・機械類は、機械類の輸出の大幅な減少の影響で49.2%減と大きく落ち込み構成比も前年の33.9%から21.0%に減少した。同様に鉱物品も、石油など鉱物性燃料の落ち込みの影響で59.0%減となり、構成比も前年の11.1%から5.6%に減少した。一方、タバコ・飲料はタバコが著しく伸びて77.9%増となり、構成比も前年の7.7%から16.7%に増加した。輸送機械は自動車为好調だった影響で、69.0%増で構成比は2.9%から5.9%に増加した。

対日輸入を品目別にみると、最大の輸入品目である電気機器・機械類(構成比62.5%)が機械類の減少で26.6%減、輸送機械(8.6%)も自動車の不調により

34.2%減、精密機器(9.5%)が12.9%減など、今までの主要輸入品目が落ち込む中、卑金属類(3.2%)が5.9%増となった。

### ■日本への投資は引き揚げ超過

DNBによると、2009年の日本からの直接投資は5億1,500万ユーロであった。主な投資案件としては、キヤノンが大手プリンタメーカーのオセを3億1,400万ユーロで買収。また積水化学がガラス中間膜を扱うオランダの生産拠点に100億円を投じて生産ラインを増設することを決定した。

また日本への直接投資は16億6,400万ユーロの引き揚げ超過であった。日本への主な投資案件としては、人材大手のランスタットが富士スタッフの株式10%を1,230万ユーロで取得した。